



Photostud

## THE TENNO SHO (AUTUMN)

## 第172回 天皇賞(秋) (GI)

1着 賞 300,000,000円 120,000,000円 75,000,000円 45,000,000円 30,000,000円  
付加賞 2,982,000円 852,000円 426,000円



レース映像は  
コチラでご覧  
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳56kg、4歳以上58kg、牝馬2kg減

2025.11.2 東京 番・良 芝2000m (国際 指定)

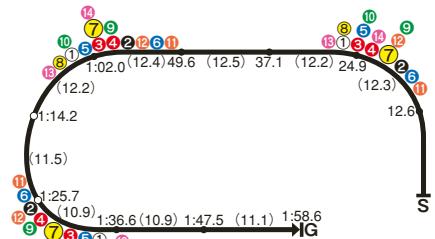
順位	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コーナー	上り	馬体重	単勝	オッズ	調教師	レーティング
						(着差)	通過順位	(600m)	(増減)				
1	⑦	マスカレードボール	牡3	56	C.ルメール	1:58.6	9-6-8	32.3	470(+4)	2.7①	手塚貴久(美浦)	121	
2	⑨	ミュージアムマイル	牡3	56	C.デムーロ	%	9-9-9	32.3	500(±0)	7.4③	高柳大輔(栗東)	119	
3	③	ジャスティンパレス	牡6	58	岡野大成	クビ	4-6-6	32.6	500(±0)	20.4⑧	杉山晴紀(栗東)	118	
4	⑪	シランケド	牝5	56	横山武史	クビ	14-14-14	31.7	516(+2)	10.7⑥	牧浦充徳(栗東)	114	
5	②	アーバンシック	牡4	58	D.ブッシュ	クビ	12-11-11	32.2	514(+2)	28.2⑪	武井亮(美浦)	117	
6	⑬	マイショウタバール	牡4	58	武 豊	ハナ	1-1-1	33.1	508(+4)	8.6⑤	石橋 守(栗東)	117	
7	⑫	セイウンハーデス	牡6	58	菅原明良	%	9-12-11	32.4	472(-10)	27.7⑩	橋口慎介(栗東)	116	
8	⑤	タスティエーラ	牡5	58	D.レーン	アタマ	4-5-5	33.0	508(+10)	6.6②	堀 宣行(美浦)	116	
9	⑭	クイーンズウォーカー	牝4	56	川田将雅	ハナ	7-6-6	32.8	542(+6)	25.1⑨	内田充正(栗東)	112	
10	⑥	ブレイディヴェーグ	牝5	56	戸崎圭太	%	13-13-13	32.3	474(-2)	7.7④	宮田敬介(美浦)	111	
11	⑩	エコロヴァルツ	牡4	58	三浦皇成	クビ	4-3-3	33.3	494(+8)	89.4⑬	牧浦充徳(栗東)	114	
12	①	コスマキユランダ	牡4	58	津村明秀	アタマ	2-3-3	33.3	520(+18)	117.0⑭	加藤津川(美浦)	114	
13	⑧	ホウオウビスケッツ	牡5	58	岩田康誠	アタマ	2-2-2	33.5	504(-4)	14.6⑦	奥村 武(美浦)	114	
14	④	ソールオリエンス	牡5	58	丹内祐次	%	7-9-9	32.9	478(+10)	50.3⑩	手塚貴久(美浦)	113	

単勝⑦270円(1kg)、複勝⑦140円(1kg)、⑨240円(4kg)、⑩360円(8kg)、枠連⑤-⑥770円(3kg)

馬連⑦-⑨910円(2kg)、ワイド⑦-⑨430円(3kg)、③-⑦820円(7kg)、③-⑨1,890円(24kg)

馬単⑦-⑨1,390円(2kg)、3連複③-⑦-⑨5,020円(13kg)、3連単⑦-⑨-⑩15,860円(29kg)

5重勝⑧②⑪⑩⑦17,132,610円(80票) 対象競走: 東京9R/京都10R/東京10R/京都11R/東京11R



通過タイム: 600m 800m 1000m  
上り: 800m 600m  
37.1 - 49.6 - 1:02.0 44.4 - 32.9

### アラカルト

- C.ルメール騎手はイクノックスで制した23年に続く天皇賞(秋)6勝目。JRA重賞は25年9勝目、通算168勝目
- 手塚貴久調教師は天皇賞(秋)初勝利。JRA重賞は25年3勝目、通算41勝目
- ドウラメンテ産駒はJRA重賞通算31勝目
- 3歳馬の勝利は22年イクノックスに続く通算6回目

# マスカレードボール *Masquerade Ball*

牡 黒鹿毛 2022.3.2生

北海道千歳市 社台ファーム生産

馬主・有社台レースホース 美浦・手塚貴久厩舎

馬名意味・仮面舞踏会

ヴァインゴールドUSA系 F4-1

ドウラメンテ 鹿毛 2012	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo
	マンファスIRE	
マスクオフ 青鹿毛 2009	アドマイヤグルーヴ 鹿毛 2000	サンデーサイレンスUSA
	エアグルーヴ	
マスクオフ 青鹿毛 2009	ディープインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA
	ウインドインハーアIRE	
	ビハインドザマスク 鹿毛 1996	ホワイトマズルGB
		ヴァインゴールドUSA

5代までのインブリード: サンデーサイレンスUSA S 3×M3  
Mr.Prospector S 4×M4 Lyphard M5×M5

## INTERVIEW

上水司 場長(山元トレーニングセンター・育成)

### まだ進化の途中だと思います

ダービー後は早々に秋初戦を天皇賞に定めて取り組んできました。騎乗調教開始まで約2カ月を充電期間として、スタッフ一同、日々焦らず丁寧に扱ってきました。暑い夏をコンディションを落とすことなく過ごせたことが、現在の充実に繋がっていると思います。待望のG I タイトルを獲得できて感激しましたが、まだ本馬は進化の途中だと思います。



J.Fukuda

### 父ドウラメンテ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首9戦5勝(日本ダービーG I、皐月賞G I、中山記念G II、ドバイシーマクラシック・首G I 2着、宝塚記念G I 2着)、最優秀3歳牡馬、17年から供用、21年死亡。23年日本リーディングサイヤー、22年日本2歳リーディングサイヤー

[代表産駒]リバティーアイランド(桜花賞G I、オークスG I、秋華賞G I)、タイトル

ホルダー(菊花賞G I、天皇賞(春)G I、宝塚記念G I)、スターズオンアース(桜花賞G I、オークスG I)、マスカレードボール(本馬)、エネルジコ(菊花賞G I)、ドウレッソウ(菊花賞G I)、ルガル(スプリントダービーS G I)、シャンパンカラーナ(HKマイルC G I)、ドゥラエラーデ(ホープフルS G I)、ヴァレーデラルナ(JBCレディスクラシックJ G I)、アイコンテラー(JBCレディスクラシックJ G I)、サウンドビバーチェ(阪神牝馬S G II)、シュガーケン(青葉賞G II)、シングザットソング(フィリーズレビューG II)、他に重賞勝ち馬多数

### 母マスクオフ

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央5戦1勝

ミヤコノオージ(15 牡父タイキシャトルUSA)中央3戦0勝

レイジアナママ(16 牝父エイシンフラッシュ)中央11戦2勝

(17 牡父ルーラーシップ)

トゥーフェイス(18 駒父モーリス)中央22戦4勝(江の島S、箱根特別、オクトーバーS・L 3着、大阪ハンブルクCOP 3着)

スガオノママ(19 牝父ハービンジャーGB)中央1戦1勝

マスクトイティーヴア(20 牝父ルーラーシップ)中央9戦4勝(ローズS G II、阪神牝馬S G II、秋華賞G I 2着、ヴィクトリアマイルG I 3着)

マスカレードボール 本馬(22 牡父ドウラメンテ)中央7戦4勝(天皇賞(秋)G I、共同通信杯G III、アイビーソ・L、日本ダービーG I 2着、皐月賞G I 3着)獲得総賞金550,610,000円

アナザーフェイス(23 牡父エピファネイア)④

(24 牡父モーリス)

※14(死産)、21(流産)、25(前年種付せず)

### 祖母ビハインドザマスク

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央10勝(スワンS G I、京都牝馬S G III、セントウルS G III、都大路S O P、小倉日経オープンO P、北九州短距離S O P)、12年死亡、オメガヴェンデッタ(阪急杯G II 2着、京王杯スプリングC G III 3着)、マスクトヒーロー(師走S O P、マーチS G III 3着)の母、サンライズゾア(平安S G III、名古屋大賞典J G I 3着、ジャパンダートダービーJ G I 2着、種牡馬)の祖母

## 究極の末脚を繰り出した3歳馬が戴冠

7頭のG I ウイナーが参戦し、混戦ムードに包まれた秋の天皇賞の主役と目されたのはG I 未勝利の3歳馬。皐月賞3着、ダービー2着のマスカレードボールが断然の支持を集め、4月のクイーンエリザベスII世CでG I 2勝目を挙げた2023年のダービー馬タステイエーラ、始動戦のセントライトを完勝した皐月賞馬ミューージアムマイルがこれに続く勢力図が描かれた。結果は3歳の2頭が1、2着。なかでも“ひと皮むけた強さ”を見せつけたマスカレードボールが、秋の中距離王の座へ駆け上がった。

外枠(8枠13番)を引いた宝塚記念の覇者メイショウウタバルが一枚上のダッ

シューで飛び出し、スンナリと主導権を奪取。毎日王冠で2着に逃げ粘ったホウオウビスケットは2番手に控え、前半1000mの通過は62秒0とかなりスローペース、凝縮した隊列でレースは進む。タステイエーラは4、5番手につけ、マスカレードボールのC・ルメール騎手は背後の中団を追走。ミューージアムマイルもその直後で仕掛けのタイミングを窺った。

残り800m地点からのラップの内訳が11秒5→10秒9→10秒9→11秒1。瞬発力に加え、その“持続力”も問われたレースは、いち早く仕掛けたタステイエーラが坂の上りで先頭へ。しかしあとひと押しを欠いて失速したところ、マスカレードボールが裏側に差し込み、ミューージアムマイルの反撃も余裕。繰り返すと抑え、ゴールに飛び込んだ。

春の二冠ではミューージアムマイル、クロフデュノールの軍門に下り、頂点のタイトルには手が届かなかつた本馬だが、距離適性を考慮して菊花賞はバ

ス。古馬の一線級に挑んだ進路選択を実らせ、22年のイクノックス以来となる3歳馬制覇を成し遂げた。春の惜敗を経て本格化、秋の天皇賞で初の戴冠を果たした歩みはイクノックスにも重なり、いつそうの強豪に挑むジヤパンCの走りが注目される。